

# なぜ備蓄品が必要なのか

## ライフラインが停止した時に頼れるのは自らの備蓄品

地震などで大規模な災害が発生した場合、ライフラインが停止し、物資の支援もしばらく届かないため、各自の備蓄が重要になります。

### 1. 大規模災害ではライフラインがすぐに復旧しない

過去の大災害では、ライフラインの復旧に1週間以上かかっているケースが多くあります。

過去の災害でのライフラインへの被害と復旧状況

	電気	水道	ガス
東日本大震災 (平成23年)	466万戸が停電 約3か月で復旧完了	257万戸が断水 約6か月半で復旧完了	200万戸で供給停止 約2か月で復旧完了
熊本地震 (平成28年)	48万戸が停電 約5日後に復旧完了	45万戸が断水 約3か月半で復旧完了	10万戸が供給停止 15日間で復旧完了
西日本豪雨 (平成30年)	11万戸が停電 約7日後に復旧完了	26万戸が断水 約1か月で断水解消	数百戸で供給停止 約1日で復旧完了
北海道胆振東部地震 (平成30年)	295万戸が停電 約1か月で復旧完了	6万戸が断水 約1か月で復旧完了	被害なし

※令和元年8月 農林水産省報告資料による



### 2. 災害後しばらくは物資が行き届かない場合がある

平成30年に発生した西日本豪雨や北海道胆振東部地震では、食料や飲料などが1週間以上品薄になる状態が続きました。

このような状況では、公的な支援物資も十分に供給されない場合も多いことから、自宅での備えをしっかりとしておくことが大切です。



### 3. 備蓄品は最低限で3日分、基本的に7日分の備えを

これまでの大災害の教訓として、ライフラインの復旧や物資の安定した供給には1週間以上かかる場合があります。

そこで、水や食料、衛生用品など、健康な生活に欠かせない物資については、最低限でも3日分、基本的には7日分を備蓄しておきましょう。



### 4. アレルギーや年齢、性別に合わせて必要な備蓄をする

避難所や公的な支援で供給される物資は、アレルギーへの対応が不十分だったり、高齢者や乳幼児、女性に必要なものが品不足だったりする場合があります。

各家庭の状況に応じて、個別に必要なものがある場合は、自宅ですっかり備蓄しておくようにしましょう。



### 5. ローリングストックで負担の少ない備蓄をする

普段から少し多めに食材・加工品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで常に一定量の食料や飲料水を備蓄する方法です。

災害用に備蓄品を準備するには保管場所などの問題がありますが、ローリングストックにより効率的で負担の少ない備蓄が可能になります

